

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

三重県鈴鹿市

○学校名

鈴鹿市立神戸中学校

○学校のURL

<http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/kanbe-j/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】各学年 9 学級 【特別支援学級】 2 学級 【合計】 29 学級

○児童生徒数

【全生徒数】 942 人（平成24年11月22日現在）
（内訳：1年生 318 人、2年生 304 人、3年生 320 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

仲間とともに心豊かに生きる生徒の育成

【人権教育目標】

一人ひとりが思いを出し合い、互いに支え合う人間関係を育てる

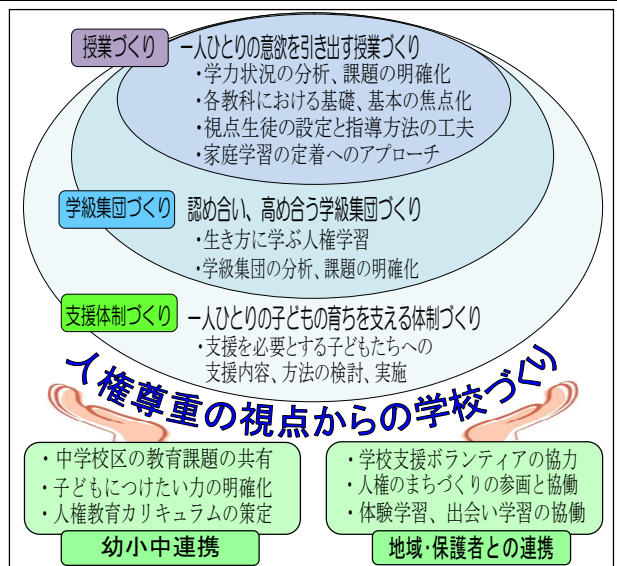
○人権教育にかかる取組の全体概要

神戸中学校では各教科等を通して人権教育を推進し、人権問題を自分の課題として考え、行動できる子どもの育成をめざしてきた。

教育的に不利な環境のもとにおかれている子どもたちに学力をつけるための

「授業づくり」とともに、確かな学力を育むためには学校・学級の中で一人ひとりの存在や思いが大切にされ安心して学べる環境が必要であるという観点から、ともに認め合いながら高め合うことのできる「学級集団づくり」、子どもに応じた組織的な「支援体制づくり」を、「人権尊重の視点からの学校づくり」の大切な柱としている。また、「地域・保護者との連携」や、幼小中の11年間の子どもの育ちを見通した「幼小中連携」も深め、教育活動のあらゆる領域で人権教育を推進している。

学級集団づくりの中では、「生き方に学ぶ人権学習」に取り組んできている。



3. 特色ある実践事例の内容

取組を始めたきっかけ

人権学習の内容が、子どもや地域の実態からかけ離れることのないように、実態把握に努め、また、地域や保護者の声に耳を傾けることにより、校区の人権課題に正面から向き合う必要性に気づき、現在の取組が始まってきている。

そして、外国につながる子ども（※1）たちや障がいのある子どもたち等の現状からも、学習する人権課題の内容をより広げていく必要がでてきた。さらに、学習した内容が知的理解にとどまってしまい、実践的な行動力につながっていないという課題から、鈴鹿市人権教育センターや地域と協働し、差別をなくす活動をしている人たちとの出会いを通じた人権学習へと取組の見直しを図ってきた。

（※1）「外国籍生徒」という表現ではあらわしきれない国籍・民族・文化などさまざまな背景をもった、たとえば、日本国籍であっても母語が日本語ではない等の子どもも含め「外国につながる子ども」と表現する。

取組の内容

【第1学年】

●「人権教育センターってどんなところ？」(全3時間)

① ねらい

- ・神戸中校区内にある鈴鹿市人権教育センターを訪ね、人権についての様々な活動が行われていることを知り、自分の人権に対する考えを深める。

② 活動経過と内容（全3時間）

第1時 鈴鹿市人権教育センターを訪問する目的を明確にする。（学年集会形式）

第2時 人権教育センターへ行き、人権問題の解決に向けて様々な取組をしていることを知る。

第3時 センターを訪問して学んだこととこれからの取組について考える。

◎ 成果と課題

鈴鹿市人権教育センターを訪問し、センターの目的や活動内容を聞くことにより、身近に「人権を守る」活動をしている施設があることを知り、人権を守ることの大切さを知ることができた。また、障がい者の人権に係わる問題に関する啓発事業である「ぬくたいフェスタ」などの活動についても知ることができた。事後の感想では、人権を守ることや差別に立ち向かうことの大切さについて言及している生徒も多数おり、一定の成果があったように思われる。しかし、日常的に友達関係のトラブルもあり、継続的に人権学習・仲間づくりに取り組むことが必要である。

【第2学年】

●「差別をなくすための地域の取組に豊かに学ぶ」(全5時間)

① ねらい

- ・自分や自分の身のまわりにある特定の地域に対する偏見や差別意識に気づく。
- ・人権のまちづくりの取組から、差別をなくそうとしている人たちの思いや願いを知る。
- ・自他の人権を尊重するために自分はどうあるべきかを考える。

② 活動経過と内容（全5時間）

第1時 「沼田（※2）へ行こう」（人権教育読本『せいかつ』）の学習（噂やそれに対する思いなど）（※2）「沼田」は、教材の中で使われている地名。

第2時 「沼田へ行こう」の学習と、「人権のまちづくり」について

第3時 出会い学習「人権のまちづくり」「差別をなくすための地域の取組について」

第4時 事後学習（出会い学習の振り返りと意見や感想の交流）

第5時 まとめ（自他の人権を尊重するために自分はどうあるべきか）

◎ 成果と課題

- ・「沼田へ行こう」を通して、自分の身のまわりにある特定の地域に対する偏見に気づき、自分が体験したことや偏見に対する自分の思いを出し合うことができた。また、噂に流されず、自分自身が実際に行動し真実を確かめることの大切さに気づくことができた。
- ・出会い学習により、人権のまちづくりや差別をなくそうとする強い思いを知り、共感することができた。また差別をなくすための地域の取組について聞き、自他の人権を尊重するために自分はどうあるべきかを考えることができた。
- ・差別をなくすために、自分の意見を相手に伝えて、仲間をつくっていくことが大切だということに気づくことができた。また、一人ひとりの考えを尊重し、協力し合うことの大切さを感じることもできた。
- ・差別をなくすために、自分の気持ちを相手に伝えていくことが大切だということに気づきながらも、実生活で自分の気持ちを相手に伝えていくことができる生徒は少ない。今後は、積極的に自分の思いを話せるような機会を設定し、取り組んでいくことが必要である。

【第3学年】

●「学年人権フォーラムを成功させよう」(全6時間)

① ねらい

- ・「出会い学習」を通じて、差別のない社会をつくる活動やその生き方に学ぶ。
- ・これまでの人権学習について学んだことを行動化、実践化する力を養う。

② 活動経過と内容

【テーマ別人権学習】(全6時間)

第1時 「出会い学習」事前学習

第2・3時 人権課題別「出会い学習」

第4時 「出会い学習」まとめ

第5・6時 学年人権フォーラム

●「自分を見つめて～自分史を作ろう～」

① ねらい

- ・生い立ちや成長の過程を、「自分史」としてまとめ、発表し交流することで自己のとらえ直しをする。
- ・現在の自分が、さまざまな人との出会いやかかわりを通して存在していることを実感し、そのつながりを大切にする姿勢をもつ。

② 指導経過と内容（全 4 時間）

第 1 時 **自分を見つめて～自分史を作ろう～**（人権学習教材『わたしかがやく』）を参考に、自分自身を振り返り、自分にとって大切な出来事を年表に書き出す。

第 2 時 **目標に向かって～将来の夢を語ろう～**（人権学習教材『わたしかがやく』）を参考に、ワークシートに、自分の 5 年後、10 年後、20 年後の姿を想像しながら、めざしたい自分の姿を具体的に描く。

第 3 時 第 1・2 時で書いた年表・ワークシートをもとに、絵日記・絵本・紙芝居・新聞などにまとめる。

第 4 時 「自分史」を発表し合う。みんなの発表を聞いて感想を書く。

◎成果と課題

- ・出会い学習を通して、「差別をなくそう」とか「人が大切にされる社会をつくろう」という取組が、さまざまな人たちの手で行われていることや、またそれらの取組を進める方々のエネルギーを肌で感じる事ができた。
- ・出会い学習を通して、日常の自分の取組を振り返ったり、自分の生き方と照らし合わせて聞いたり、考えたりすることができた。
- ・「自分史」を発表し合うことで、卒業までの日々を仲間とのつながりを大切に過ごしていこうという雰囲気が出た。
- ・「将来の夢」や「自分史」を聞き合い、ともに生き方を高め合っていくためには、日常生活の中で一人ひとりの思いがどれだけ聞き合えているか、伝え合えているかがポイントとなる。思いを「綴る」・「伝え合う」などの取組の一層の充実が必要である。

4. 実践事例の実績、実施による効果

子どもたちは、自分たちの暮らす地域の中でいろいろな人たちが、差別をなくす活動をさまざまに展開していることを知り、その人たちとつながっていききたいという思いから、それらの活動に積極的に参加するようになった。差別をなくすためには、自分の意見を伝え、仲間をつくっていくことが大切であると、それらの活動の中で思いを発信している。また、外国につながる子どもや障がいのある子ども、家族に障がいのある人がある子どもなどが、取組の中で生き生きと活動する姿もある。

【人権教育センター事業「子どもの人権ネットワーク」への参画】

「子どもの人権ネットワーク」は、子どもの権利条約に基づき、子どもが自分の思いや感性を発揮できる居場所をつくることを目的に、いじめや人権問題をテーマにした人権劇づくりを通して、子どもたちが差別をなくす仲間としてつながることをめざして取り組んでいる。また「市生徒会研修会」等において、人権劇の上演を通して主体的に自分たちの経験や思いを発信し、参加者とともに人権尊重の生き方を高めている。

- ・実施会場 鈴鹿市人権教育センター
- ・実施日程 年間 18 回 19:00～20:30

・神戸中学校からの参加人数 3年生6名、2年生4名、1年生1名（計11名）

【「ぬくたいフェスタ」を成功させる生徒実行委員会】

「ぬくたいフェスタ」は、校区の幼小中学校や地域の教育機関、行政、NPO、地域住民の代表などで実行委員会を組織し、2004年より毎年開催している障がい者問題の啓発事業である。子どもたちはこの「ぬくたいフェスタ」に自分たちも参画していこうと、校内に「ぬくたいフェスタを成功させる生徒実行委員会」を立ち上げている。今では、その中学生の姿を見ながら、校区の小学生たちも「ぬくたいフェスタ」に参画し始めている。

【人権フォーラムへの参加】

鈴鹿市では、子どもが主体的に自らの体験や考えを発表する、「出会い・発見」の場を設け、子どもと教育関係者が、ともに差別をなくそうとする人権尊重の精神を高め合うことを目的に、各中学校区で人権フォーラムを開催している。神戸中校区でも、中学生と各小学校の6年生の参加を募り、人権フォーラムを開催している。人権フォーラムに参加した中学生は、自分たちの学校をもっとみんなが安心して生活できる学校にしていきたいと、そこで体験したことを中学校に戻って仲間に還元している。

3年生 8人 2年生 13人 1年生 3人 （計 24人）

5. 実践事例についての評価

（1）教職員評価より

人権フォーラム、ぬくたいフェスタ等の人権活動に参加する子どもが年々増加している。神戸中学校の人権学習や地域で行われている人権活動を通して育った子どもの中には、人権侵害に気づき、おかしいと声をあげる子どもや高校進学後も人権活動に取り組む子どももあり、差別をなくそうとする態度が育ってきている。また、中学校区として、校区の教育課題を踏まえた幼小中11年間の系統的なカリキュラムを策定することができた。

育てたい力	重点項目	幼稚園	小学校			中学校
			低学年	中学年	高学年	
未来を拓く力 【キャリア教育部】 将来への展望を持ち、自己実現をめざす子ども	キャリアプランニング 人との出会い体験学習	好きなことを見つけ、行動する。 自分でできることは自分でする。	係の必要性、役割の大切さを知る。 身近で働く人に関心を持つ。	係の仕事や自分の役割に積極的に取り組む。 いろいろな職業を知る。	自分の役割や責任を果たす。 働くことの大切さを知る。	自分の適性を知り、自分にあった生き方を考える。
学び合う力 【学力保障部】 基礎学力を身につけ、意欲的に学び合う子ども	基礎学力 聞く・話す力 読書活動 家庭学習	楽しく人の話を聞く。 楽しく人と話す。	人の話を最後まで聞く。 はっきりとよい言葉で話す。	大切なことを落とさずに聞く。 よい言葉でわかりやすく話す。	要旨をつかんで人の話を聞く。 自分の考えをまとめ順序立てて話す。	相手の意図を考えながら話を聞く。 自分の考えを整理して、構成を工夫して話す。
生活を創る力 【生徒指導部】 互いのつながりを大切にし、自己の向上に取り組む子ども	生活規律 約束・決まり チャイム席	約束や決まりを知り、それを守ろうとする。	約束や決まりを守る。	友だちとともに、約束や決まりを守る。	約束や決まりをもとに、状況に応じて適切に判断し、行動する。	規律を遵守し、自分の生活の向上に取り組む。
	人のかかわり コミュニケーション あいさつ・返事	友だちとかかわり、相手の気持ちに気づく。 友だちと一緒に活動する楽しさを知る。	たくさんの友だちとかかわり、助け合う。 自分の思いを伝える。	友だちのよいところを認め、励まし合う。 思いや気持ちを互いに伝え合う。	人を思いやり、相手の立場になって考え、行動する。	自分の行動に責任を持ち、他人と協力して生活する。
豊かにつながる力 【人権教育部】 主体的に人権のまちづくりに参画しようとする子ども	人権学習 地域との連携	地域にはさまざまな施設があることを知る。	地域の施設で働いている人に興味や関心を持つ。	人権のまちづくりに取り組む人があることを知る。	人権のまちづくりに取り組む人たちの思いに気づき、行動する。	人権のまちづくりに主体的に参画する。
	人権活動 仲間づくり	たくさんの友だちとかかわる。 みんなで楽しく過ごす。	自分も友だちもかけがえのない存在であることに気づく。 仲間と身近な問題について考える。	互いに違いがあることを認め合う。 よりよい生活をつくるために、自分に何ができるかを考える。	互いの思いや願いに共感する。 よりよい社会を築くために、仲間とともに主体的に行動する。	仲間とともに主体的な生き方を創造する。 人権が大切にされる社会づくりに参加・参画する。

【人権教育総合推進カリキュラム】

（２）関係者評価より

保護者、地域住民からなる学校評議委員会による「学校関係者評価」では次のような評価があった。

神戸中学校が以前から力を入れてきた人権教育の取組については、引き続き充実させていくことが必要である。そのためには、自分自身の有り様に気づき、自尊感情をもてるような取組を充実させていくことが大切である。

ぬくたいフェスタや人権学習で連携をしている鈴鹿市人権教育センター所長からは次のような評価があった。

ぬくたいフェスタの生徒実行委員会の生徒が、障がいのある仲間とともに進行をつとめたり、一緒に踊ったり歌ったりする姿は、地域の人たちに対して、ともに生きるとはこんな姿なんだと伝えてくれている。

（３）今後に向けて

今日の社会状況の中、神戸中学校では、教育的に不利な環境のもとにおかれている子どもたちの進路・学力保障をめざし、数年前から一人ひとりの意欲を引き出す授業づくりについての取組も進めてきている。

今後も、子どもたちの生活背景や思い・願いから教育課題を明らかにし、作成した校区の人権教育カリキュラムをもとに人権教育推進計画の見直しを図り、教育活動全体を通じて、一人ひとりの子どもたちの自己実現をめざし取組を進めていきたい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

鈴鹿市立神戸中学校

人権尊重の視点に立った学校づくりの柱として、「授業づくり」「学級集団づくり」「支援体制づくり」の三本を中心に据えた取組である。これに、地域・保護者との連携や幼小中連携を深める実践を重ねている点が注目される。

また、鈴鹿市人権教育センターとのタイアップを進め、人権教育センター主催の「子どもの人権ネットワーク」に参画するとともに、校区内の幼小中学校や地域の教育機関、行政、NPO、住民代表などが開催する「ぬくたいフェスタ」に積極的に参画している点が特筆される。「ぬくたいフェスタ」への参画に当たっては、校内で「ぬくたいフェスタを成功させる生徒実行委員会」を組織するなど、極めて主体的・積極的な取組を進めている。さらに、校区内各小学校にも呼びかけ、中学校区単位での「人権フォーラム」も成功させるなどして、取組を1校単独のものとせず、地域全体に人権活動のうねりを広げている点が評価される。